

和歌山市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年8月～24年3月)

【中心市街地を巡る状況】

○かつての中心商業地は買回品中心の商店街と百貨店等の大型店で構成されており、近隣市町村からの集客多く、休日賑わうまち

○市郊外部や周辺市町村に多くの郊外型大規模集客施設立地

○中心市街地内：大規模商業施設の相次ぐ撤退、倒産
H11 大丸百貨店撤退、H13 丸正百貨店倒産、H14 ビブレ撤退



○歩行者通行量激減[ぶらくり丁旧丸正百貨店ビル前]
H8→H18: 休日 △78%、平日△63%

○人口減少 H7: 12,623人→H19: 11,268人(10.7%減)

○高齢化率の進展 H9: 23.8%→H18: 29.3%

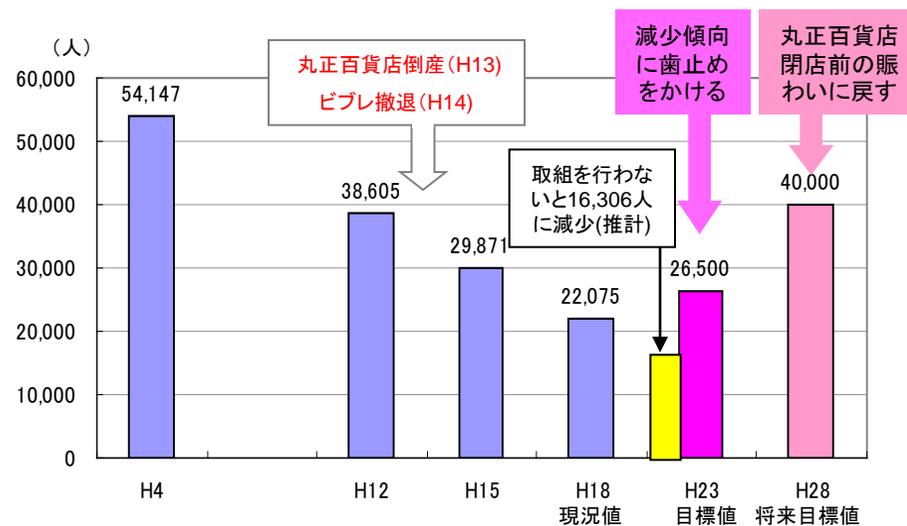
○商品販売額 H9: 1,231億円→H16: 735億円(40%減)

○空き店舗率 H14: 11.5% → H19: 22.7%

【目標】

目標	指標	現況値	目標値 (H23FY)
城まち賑わい拠点の創出	中心商業地(ぶらくり丁)7地点の歩行者・自転車通行量	22,075人	26,500人
城まち居住促進	居住人口	11,268人	11,680人
城まち回遊性の向上	城まちハッピーロード6地点の歩行者・自転車通行量	9,762人	22,500人

(中心商業地(ぶらくり丁)7地点の歩行者・自転車通行量と数値目標)



中心市街地の象徴であった旧丸正百貨店ビルの再生と和歌山大学観光学部の設置を起爆剤として、多様な関係者の参画による城まちハッピーロードでの取組など各種事業の一体的展開により、ぶらくり丁を中心とした城まち[※]の賑わいを創出する。

※「城まち」とは、和歌山城の城下町であり、町人のまちであったぶらくり丁周辺地域を中心とした中心市街地のこと。

和歌山市中心市街地活性化基本計画の事業概要

和歌山大学・和歌山県・和歌山市の連携による地域活性化事業の展開

○和歌山大学の学生と地域が連携したまちづくりの推進により、賑わいを創出。

○3者(大学・県・市)の連携により、商店街にある空き店舗の活用や、賑わい創出事業を検討・実施し活性化を図る。

城まち賑わい拠点の創出

和歌山城内整備事業

○和歌山城再建50周年にあわせてライトアップや「城フェスタ」等イベントを実施し、賑わいを創出。



旧丸正百貨店ビル暮らし・にぎわい再生事業



○明治中期から中心市街地のシンボリック存在であった旧丸正百貨店ビル(H13より閉鎖)をリニューアルし、食料品・日用品店、飲食店、温浴施設、カルチャー教室、ニットミュージアム、和歌山大学観光学部関連施設等を整備。

紀の国ぶらくり劇場設置運営事業

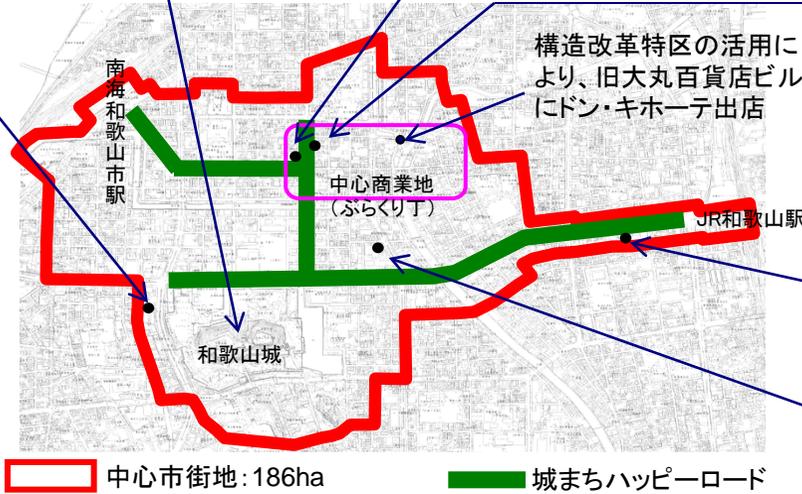
○高齢者・中高年層をターゲットに、歩いて楽しいまちづくりの拠点として映画館跡地に整備した大衆演劇場「紀の国ぶらくり劇場」を活用し、賑わいを創出。



城まち回遊性の向上

城まちハッピーロード活性化推進事業

○ぶらくり丁、和歌山城、JR和歌山駅、南海和歌山市駅を結ぶメインストリート『城まちハッピーロード』において、青空市、移動型オープンカフェ等、学生や市民の参画による各種イベントの実施や、まちなか観光案内所の設置運営等の賑わい創出のための事業を積極的に展開。



城まち居住の促進

けやき大通り第一種市街地再開発事業



○JR和歌山駅前に共同住宅、ホテル、商業施設を整備し、街なか居住や賑わいの創出を図る。

地域小規模多機能型介護施設の整備

○小規模多機能型介護施設(通所、宿泊、自宅訪問介護サービス)やグループホームを整備し、高齢者介護や高齢者の街なか居住を促進する。

移動型オープンカフェ



まちなか観光案内所



和歌山大生によるイベント



まちなか語り部ウォーク ナイトウォーク

